5月30日はござまるの日

中城村では、歴史・文化・自然への関心を深め、次世代への伝統文化継承と郷土を愛する心を育むことを目的として、5月30日を「ござまるの日」として条例を制定しました。

とよむ中城村

Smile（スマイル）Nakagusuku

～笑顔がつながる、広がる～

豊かな歴史と自然に彩られた
田園文化の村『とよむ中城村』

中城村村勢要覧

CONTENTS

❶ 中城城跡を訪ねて …… 2p
古琉球時代を今に伝える名城・中城城

❷ 中城の祭 …… 10p
中城まつり・わかてだを見る集い・中城文化まつり

❸ 中城の伝統芸能 …… 12p
伊集の打花鼓・久場青年会エイサー・当間の綱引き
津覇の獅子舞・添石の旗頭

❹ 中城MAP・文化財・公共施設 …16p
中城村の文化財・歴史的名所・公共施設の紹介

❺ 中城人に聞く！ …… 18p

❻ とよむ中城紹介 …… 22p
人がとよむ・環境がとよむ・仕事がとよむ

❼ とよむ21行政区の紹介 …… 36p
あふれる自然と活力あるコミュニティー

❽ 中城村の歩み …… 38p
過去から現代そして未来へと続く「とよむ中城」のこころ

❾ 中城豆知識 …… 39p
中城の意外な話

❿ 中城村の昔話 …… 40p
伊舎堂の三本ガジュマル

⓫ 中城村民の歌 …… 41p

村章

円は村民の和を表し、巴は護佐丸の紋を形どったもので誠実を表し、「中」の字と突出部は、村名と村の発展を表現している。
（昭和54年3月10日」告示第14号）

中城村マスコットキャラクター

5月30日はござまるの日

中城村では、歴史・文化・自然への関心を深め、次世代への伝統文化継承と郷土を愛する心を育むことを目的として、5月30日を「ござまるの日」として条例を制定しました。

村花 - ハイビスカス

村木 - クロキ（リュウキュウコクタン）

村魚 - イジュキン（モモイヨリ）

中城村村勢要覧

とよむ 中城村

人と人、心と心、夢と夢をつなぐ村
中城城をはじめ伝統芸能など、
歴史文化の中で育まれた中城村には
笑顔があふれています。

村民みんなが笑顔の村

スマイル Smile Nakagusuku

【世界遺産】

中城跡城を訪ねて

グスクの会ボランティアガイドに聞く！

古琉球時代を今に伝える名城・中城城

中城城跡は中城村の北側標高150～170mの丘陵地にある6つの郭からなる城（グスク）で、沖縄県内にある約300のグスクの中でも、当時の状況を最もよく残しているといわれています。中城村・北中城村にまたがる国指定の範囲約11万㎡（東京ドーム約2・4個分）の広大な中城城跡の内、約9割が中城村に属しています。

現在、中城城跡の入口は駐車場のある北東側にありますが、ここは元々裏門にあたり、正門は南西の首里側に面したところにあります。グスクの成り立ちや歴史、特徴をわかりやすく説明するため、また、現在「中城城跡公園整備事業」の一環として本来の正門に入口を戻す事業も進められていますので、正門から裏門へと順に案内していくことにします。

ガイドをしてくれたのは地元ボランティアガイド「グスクの会」顧問の仲村春吉さん、中城村の誇りでありシンボルであるという中城城跡を、2つのキャッチフレーズと5つのキーワードで、わかりやすく、ときにユーモアを交えて楽しく案内してくれました。

世界遺産登録認定書

平成12年12月、中城城跡を含む「琉球王国のグスク及び関連遺産群」が国内11番目の世界遺産として登録されました。世界に誇る歴史遺産を、私たちは大切に守り伝えていかなければなりません。

裏門前に中城城跡1/200スケールのジオラマがあるので、一度見てから城跡内に入ると全体像がわかりやすい

二の郭「武者走り」から遥か西方の勝連城を指す『グスクの会』の仲村春吉さん（左端）

Nakagusuku Castle Ruins, World Heritage Site

The Nakagusuku Castle ruins, the symbol of Nakagusuku Village, are a world-class historical legacy, having been registered as a World Heritage Site in December 2000.

It is not known exactly when Nakagusuku Castle was constructed, but three generations of lords of Nakagusuku in the latter half of the 14th century seem to have built the southern enclosure, first enclosure, second enclosure, and western enclosure. Then, Gosamaru, who moved from Zakimi Castle around 1440, is said to have used the most advanced technology of the time to add the third enclosure and northern enclosure. The degree of the castle construction technology is such that it made a strong impression on the entourage of Commodore Perry, who arrived in Ryukyu in 1853.

In 1458, Gosamaru was hit in a surprise attack at night by a combined force made up of the Shuri royal army and Amawari's force from Katsuren. Gosamaru committed suicide together with his family and was vanquished. This was the famous battle between Gosamaru and Amawari. However, some historians have also offered a theory that a three-way struggle was actually taking place among the Shuri royalty, Nakagusuku and Katsuren.

The many visitors to the site cannot help but be fascinated by the splendid form of symmetrical harmony of straight and curved lines along with the wonderful view taking in almost half of the Okinawa main island from the archaeological site of the Nakagusuku Castle ruins. This classical tale of the warring states period in Ryukyu is the one most often told today in Okinawa.

戦い、そして祈る兵どもが夢の跡

中城城跡5つのキーワード

1 築城当時の姿をよく残したグスク
当時の城壁の約80％が残っている。

2 石積みの博物館的なグスク
野面積み、布積み、相方積みと三つの石積みのすべてがある。

3 琉球の歴史が見えるグスク
首里城、中城城、勝連城が一直線上にあることが見える。

4 沖縄本島のほぼ半分が見えるグスク
北部から中部、そして南部まで沖縄本島のほぼ半分が見えるほどの眺望。

5 雅（みやび）なグスク
直線と曲線が調和した見事なフォルム。

1 築城当時の姿をよく残したグスク

【カンジャーガマ上の岩盤】

正門前の小道を下っていくとかなり広い野原に出ます。ここに当時、武器や農具をつくった跡という「カンジャー（鍛冶屋）ガマ」があります。Point 1

この上から、標高160mくらいの断崖絶壁の岩盤がずーっと先まで（約800m）続いていて、その上にグスクが築かれていることがよくわかる場所です。

なぜ、ここにグスクをつくったのか。理由のひとつは、東側がこの切り立った崖、西側がきつい傾斜地になっていて「守りやすく攻め難い」天然の要害だったこと。もうひとつが、築城の材料である琉球石灰岩が豊富にあったこと。

加工しやすい石灰岩の上部を切り取り、そのまま上に積んでいくと、下が頑健な岩盤なので少々の揺れでは城壁はビクともしない。最初の築城から650年くらい経つ中城城が、「築城当時の姿をよく残したグスク」といわれるのは、そのせいだというのです。ガイドの仲村さんは、材料の調達とその後の修復のしやすさ、さらに頑健さのすべてを考えて、この地を選んだ先人の知恵に感心することしきりでした。

さらに、仲村さんの話は沖縄戦に及びます。当時、中城城跡にも日本軍の部隊の一部が駐留していたため米軍の砲撃を受けます。しかし、砲弾が当たったところだけは城壁が吹っ飛びましたが、その下の部分は残ったと。これもこの地を選んだ先人の先見の目と築城技術の確かさを証明するものだというのです。

正門 正門は城の顔であり攻防の要。だから城を守るためのいろんな工夫がされています。正門をはさむようにして両側に石垣がせり出し、ハンタ道（公道）も、一度に多くの兵が攻め入れないように折れ曲がり、狭くなっています。

カンジャーガマ 琉球石灰岩の岩盤をくり抜いて造られたカンジャー（鍛冶屋）の跡。城主の為の武具や農民の為の農具を作ったとされています。城主が農具を農民に分け与えることにより、農民は生産力が高まり豊かになり、それだけ税金も増える、そういう共存共栄の関係が築かれていたとする説もあります。

※中城城（想像図）

三の郭 三の郭は新城（ミーグスク）とも呼ばれ、戦いにそなえて護佐丸が北の郭と一緒に増築したもので、石積み技法の最も進んだあいかた積み（亀甲乱れ積み）によって築かれています。

二の郭 ここには城内で働く人や城主の家族が住んでいた建物があったと考えられています。

一の郭 中城城で最も広い郭で正殿があった場所。城王を守るためのウタキ「中森の御イベ」があります。後に間切番所（まぎりばんじょ）、廃藩置県後は中城村役場がありましたが、沖縄戦で消失しました。

裏門 入城するときには、ここから入るので正門とまちがえそうですが、実は裏門です。 護佐丸がつくったといわれています。門をへこませてつくっているため、敵が攻めてきたときには、上や横から矢をうつことができるようにくふうされています。

一の郭発掘調査中の中城城跡。写真は2010年撮影（中城村教育委員会提供）

【キャッチフレーズ】戦うためのグスク

【正門】

正門の門扉の前がコの字型になっていて、かなり狭いスペースに敷石があります。Point 2 これは、築城当時からのもので、城を護るうえで重要な所だそうです。門扉は木で、その上にやはり木の櫓が乗っていた。敵兵が門に迫ってくるとまず、左右の銃眼から鉄砲を撃ち、さらに突入してくると左右の城壁の上から弓で射てるようになっている。Point 3

そして、城壁の上は「武者走り」といって弓矢を持った武士が走り回れるようになっているし、角々には「武者溜り」といって、何人かの武士が集合できるようになっている……と。まさに「戦うためのグスク」です。

仲村さんのお話に耳を傾けていると、昔日の武士たちの攻防が目の前に広がるようで、芭蕉の「夏草や兵どもが夢の跡」の句が、ふと浮かんできました。

イメージ

南の郭壁の狭間（はざま） 正門左右や北の郭など計5箇所にあり、沖縄でヒャーと呼ばれている三眼銃を撃つための銃眼だったのではと推測されています。（39頁「中城豆知識」参照）

過去から現代・未来へと受け継がれていく世界の宝

1 南の郭へ登る階段は左右が互い違いの階段のつくりになっています。はっきりとした機能はわかっていませんが、諸説の一つに、上級武士と平武士を分けて歩かせたという説と、昔は荷物を棒に下げ二人で運ぶため階段を一段ずらし登ると平行になる為、登りやすくすなったという説とがあります。 2 正門は虎口と呼ばれる仕組みで、石垣が門をはさむようにせり出す形となり攻めてきた敵を左右、正面から多角的に制圧できるようになっています。

1853年に来島したペリー艦隊から派遣された『琉球探検隊』に随行した絵師・ハイネが描いた絵は精密で後に中城城を修復するときの参考資料になりました。(西の郭内から正門付近をながめた風景)

2 石積みの博物館的なグスク

【正門から西の郭へ】

幅約30m、長さ約120mの西の郭は、武士たちが馬や弓の軍事訓練をしたところといわれています。ここから正門付近を描いた絵があります。Point 4 1853年黒船でペリー提督一行が沖縄に立ち寄ったとき、随行絵師のハイネが描いたものです。ペリーは中城城を「機械もセメントもないのに大変耐久的に築かれてあった。よく調べてみると築城上二つの著しい建築法がしてあるのは感心であった。」と記しています。

中城城がいつ頃つくられたかはまだはっきりしませんが、14世紀後半に3代にわたる先中城按司が南の郭（野面積み）、一の郭、二の郭、西の郭(布積み)を築き、1440年頃座喜味城跡から移ってきた護佐丸が当時の最新技術で三の郭、北の郭（布積み）を増築したといわれています。この3つの石積み技術がひとつの場所で見られるところはまれで、中城城跡が「石積みの博物館的なグスク」といわれるゆえんです。

【キャッチフレーズ】

祈りのためのグスク

【南の郭】

南の郭は、城内で最も神聖な場所です。郭内には、神の島久高島を拝む「久高遥拝所」、首里を拝む「首里遥拝所」「雨乞いの御嶽」の三つの拝所があります。その他城内には、一の郭に「中森ノ御イベ」、二の郭に「シライ富ノ御イベ」など全部で八つの拝所があります。

また、南側の城壁には「狭間」と考えられる三つの四角い穴があります。

南の郭にある聖地久高島への遥拝所（ウトーシ）。他に雨乞いの御嶽など城内には、八つの拝所があります。

中城城跡には三種類の石積みがあります

1 野面積み（乱積み）（一の郭西面）

中城城の石積みには 1 野面積み（大小様々な自然の石を組み合わせて積む）、2 布積み（直方体に加工した石を布を折り畳むように一段ずつ積む、仕上げは綺麗だが強度に欠ける）、 3 相方積み（多角形に加工した石を要に5～6個の石を囲むように組む。力を分散させるので強い石積み）

2 布積み（一の郭北東面）

3 相方積み（亀甲乱れ積み）（北の郭西面）

1 首里遥拝所（しゅりウトーシ）は護佐丸滅亡後に造られたもの。2 雨乞いの御嶽は中央に霊石があり「神は石に宿り、人々を守護する」という信仰の形態をとっている。3 南へと向かう聖地、久高遥拝所（くだかウトーシ）

1 太平洋側の沖縄本島南部方面を望む（知念半島方面） 2 北部を望むと遠くに勝連城を見ることができ、晴れた日には北部の山々が見えます。
3 西側を望むと東シナ海が見えます。写真は宜野湾・北谷エリア。

3 琉球の歴史が見えるグスク

【一の郭】

ここは城主が住んだ正殿があった主郭です。1458年旧8月15夜、護佐丸が月見の宴を楽しんでいるところに、勝連の阿麻和利と首里の連合軍に夜襲をかけられ、家族もろとも自害したという「護佐丸・阿麻和利の変」の舞台です。

護佐丸は三山を統一した尚巴志と一緒に戦い、その後も5代の王に仕えた武将です。その護佐丸がこともあろうに首里に反逆するなんて……。

物見台に登ると、遥か東方に首里城が、西方約12km先には勝連城が見え、中城城をまん中に一直線でつながっていることがよくわかります。ここは「琉球の歴史が見えるグスク」です。遥か遠くを見ながら琉球戦国時代最後の英雄どうしの戦いに思いを馳せてみては……。Point 5

一の郭から二の郭入口を望む。

一の郭にある観月台。この観月台は 1960 年代に造られたものです。

4 沖縄本島のほぼ半分が見えるグスク

【二の郭】

ここの城壁の「武者走り」に登ると、眼下に中城湾が広がり、太平洋上に久高島が、西に目をやると東シナ海がキラキラ光っています。遥か北には北部の山々が見え、勝連半島、中部一帯へと続き、南の方には知念半島、八重瀬岳など南部一帯が見渡せます。「沖縄本島のほぼ半分が見えるグスク」の眺望です。Point 6

北の郭には大井戸（ウフカー）があり、この井戸を守るために北の郭は造られたと考えられています。

5 雅（みやび）なグスク

【三の郭、北の郭から裏門へ】

二の郭から三の郭へ入る門はなく、北の郭へ行き、45度以上ある急な階段で登るようになっています。Point 7 北の郭はウフカーという井戸があります。

見事なアーチを描く裏門の外側から中城城を見ると、天空を突くような直線となだらかな曲線が調和した城壁が「雅なグスク」のキーワードそのものに青空にくっきり浮かんでいます。Point 8

1 三の郭は護佐丸が増築した場所で、別名を新城（ミーグスク）といい、中城城で固有の郭名が残っている唯一の場所です。 2 急な階段は敵の侵入の勢いを抑える為だと推測されます。

1 青空に映えるたたずまいが美しい三の郭を望む。 2 沖縄で一番保存状態のよいアーチ門といわれる裏門。ペリー一行がエジプト式と評したアーチ状の門です。

世界遺産「中城城」の魅力を伝える地元ボランティアガイド「グスクの会」

中城村教育委員会が主催するボランティアガイド養成講座の卒業生たちが平成9年に結成したのが「グスクの会」です。現在 39 名の会員。中城城を案内しながら、城の歴史、構造、エピソードなどをわかりやすく解説してくれます。案内をご希望の団体・家族など（2～3名から）は1週間以上前にお問い合わせのうえご予約下さい。

要予約 TEL.098-935-5719

護佐丸と阿麻和利の変

首里・中城・勝連三つ巴の謀反劇

尚巴志（1372～1439）が三山を統一したとはいっても、王府の基盤はまだ弱く、群雄割拠が続いていた時代。

第一尚氏六代目尚泰久王は、勝連で勢力を伸ばしつつあった阿麻和利をけん制するため、1440年頃読谷の座喜味城主であった護佐丸を中城城主に任命します。城づくりの名人といわれた護佐丸は、三の郭と北の郭を増築して、阿麻和利の攻撃に備えていました。

ところが、1458年旧暦八月十五夜の月見の宴を楽しんでいた護佐丸は、突然王府の旗をかかげた阿麻和利に攻められます。護佐丸が謀反を企てているというざん言を、尚泰久王が信じ、中城城攻略を阿麻和利に命じたのです。

首里王府への忠誠心厚い護佐丸は抵抗することができず、妻子とともに自害します。しかし、三男盛親だけは乳母に連れられ、無事逃げのびます。

その後、阿麻和利はたくらみが発覚し、首里王府軍に攻められ、滅びてしまいます。謀反の疑いが晴れた護佐丸の遺子・盛親は、王府の要職に就き、その子孫は末広がりで繁栄したと伝えられています。

【護佐丸】
生年不詳～1458 年。恩納村にある山田城主の子として産まれ、1416 年に尚巴志と共に、今帰仁グスクを攻め落とし、その功績が認められ読谷の地を与えられて座喜味グスクを築き城主となる。その後勢力を増やしていた勝連城主阿麻和利をけん制するため王の命により中城に拠点を移す。

【阿麻和利】
生年不詳～1458 年。沖縄本島中部、与勝半島を勢力下に置いた按司。第一尚氏王統の第六代国王・尚泰久の娘である百度踏揚（ももとふみあがり）を妻に迎えており、同王の娘婿の立場にあった。史書によれば、奸計を用いて中城城主の護佐丸（ござまる）を討ち、さらには首里城攻略の野望をも抱いたが、王府の差し向けた軍に攻め滅ぼされたとされる。このため最近まで忠臣・護佐丸、奸臣・阿麻和利（あまわり）のイメージがあったが、近年では再評価されつつある。

Incident Between Gosamaru and Amawari

This uprising happened during a time when Sho-Hashi (1372~1439) had unified the three kingdoms, yet the foundation of his royal government was still fragile and rivalries between local lords continued to flare up.

Around 1440, King Sho-Taikyu, the sixth descendant of the first King Sho, appointed Gosamaru, lord of Zakimi Castle in Yomitan, to be lord of Nakagusuku Castle in an effort to contain Amawari, who was continuing to gain strength in Katsuren. Gosamaru, revered as a master castle-builder, constructed the third and north enclosures and further strengthened the castle defenses to prepare for an attack by Amawari.

On the night of the 15th day of August according to the lunar calendar in 1458, Gosamaru was enjoying a banquet to view the full moon when Amawari suddenly raised the flag of the royal government and attached the fortress. King Sho-Taikyu had been convinced that Gosamaru was making plans for an insurrection against Shuri, so the King ordered Amawari to launch a preemptive attach on Nakagusuku Castle.

As Gosamaru was deeply loyal to the royal government, the sight of the King's banner forestalled him from offering any resistance and he killed himself along with his wife and children in the end. Only his third son Seishin was rescued by his wet nurse, escaped safety and lived on.

Later, Amawari's scheming came to light. The royal army from Shuri attacked and destroyed him. Any doubts about Gosamaru planning an insurrection were dispelled, and Seishin, his only surviving child, was installed in a key post of the royal government. It is said that his descendants enjoyed increasing prosperity as time went on.

Amawari VS Gosamaru

組踊「護佐丸」を保存・継承

現在上演されている組踊「護佐丸」は平成 7 年に他市町村で演じられている護佐丸組踊りや和宇慶に伝わっていた組踊「護佐丸」を、もとに、組踊上演実行委員会が脚色したものです。

平成 12 年には文化協会に組踊部会が発足し組踊「護佐丸」の保存と継承に力を入れており、平成 14 年の中城グスクまつりでは、初めて村内の高校生が主役の護佐丸に起用されました。高校生が演じた護佐丸はその活き活きした演技で次代に伝えていく価値をあらためて認識させたのです。

わかてだを見る集い

「わかてだ（初日）」からエネルギーをいただく

昔から沖縄では冬至（トゥンジー）の日は太陽が生まれ変わる日で「トゥンジー正月」といわれていました。「わかてだ（初日）」を世界遺産・中城城跡で迎え、讃えることで強く生き抜く力を育むとともに、中城・北中城両村が未来永却に発展することを祈願する行事です。

12月の冬至の日、日の出の前から、古典音楽斉唱、琉舞舞踊、伝統芸能などが披露され、厳かに日の出を迎えた後、さらに芸能を続けます。

終了後には、ボランティアガイド「中城グスクの会」による「中城城の案内が無料であり、歴史における「中城」を知る事ができます。

日の出と共にそれぞれの想いを祈願する

夜明け前、夜明け後にかけて伝統芸能、琉舞などで「トゥンジー正月」を祝う

「中城グスクの会」による中城城の案内

Gathering to Watch Wakateda

Since long ago, the day of the winter solstice in Okinawa is known as the day on which the sun is reborn, called the Tonji New Year. Wakateda (first day) is welcomed and glorified at the World Heritage Site Nakagusuku Castle Ruins. At the event, prayers are made so that the offerors develop the strength to survive and that both Nakagusuku and Kitanakagusuku Villages will prosper for eternity
Before the sun comes up on the day of the winter solstice in December, classical music is sung in unison, Ryukyu dances are performed along with traditional arts.
After solemnly welcoming the sunrise, the public entertainment continues on some more.
When the events are concluded, volunteer guides from the Nakagusuku Gusukuno Kai offer free tours of Nakagusuku Castle, giving visitors an opportunity to learn about Nakagusuku in history.

Festivals in Nakagusuku

中城文化まつり

文化の「継承・創造・発展」がテーマ

中城文化まつりは、村文化協会の各サークルの優れた作品や一般からの公募作品の展示や伝統芸能などの舞台発表を通して、芸術・文化活動についての理解を深め、文化の継承と創造・発展を図るために開催されています。

Nakagusuku Culture Festival

The Nakagusuku Culture Festival is held so that people can acquire a greater understanding of the arts and cultural activities as well as encourage people to carry on, create and develop culture through stage performances of traditional arts as well as exhibitions of crafts by the general public and outstanding works produced by various groups from clubs to village cultural associations.

中城の祭

Festivals in Nakagusuku

活力ある村、活力ある人々、活力ある未来

中城まつり

村民みんなが主役のまつり

吉の浦公園を会場に開催される中城まつりは、多くの村民や村外からの観客を動員し、毎回盛り上がりをみせています。

「村民参加のまつり」をモットーに、打花鼓、獅子舞、エイサーなど多彩な伝統芸能やイベント、花火をくりひろげ、村の一大イベントとして定着しています。

Nakagusuku Festival

The Nakagusuku Festival is held at Yoshinoura Park. The festivities reach a pinnacle every year, attracting large crowds of village residents and non-residents.
Under the theme of a "Festival for Village Residents to Partake," there are spectacles such as Chinese-style Tafaku dance, lion dance, Eisa and many other traditional performing arts and events. In the evening, fireworks are unfurled. The Nakagusuku Festival has taken root as the village's biggest event of the year.

【県指定無形民俗文化財】伝統芸能

伊集（イジュ）の打花鼓（ターファークー）

The Tafaku Dance of Iju

起源は中国、那覇の久米から伊集へ

沖縄で打花鼓の芸能が現在継承されているのは中城村の伊集だけです。明らかに中国系のこの芸能がいつ頃、どのように伊集に伝えられたのでしょうか。

打花鼓は中国から渡来した久米36姓によって、まず那覇市久米に伝わりましたが、時期については定かではありません。久米では毎年の三六九（サンルーチュー、学芸会）後の宴で演じる慣行がありましたが、1879年の廃藩置県を機に上演されなくなりました。

その後、那覇市天久上の屋の村芝居で演じられるようになりましたが、いつしか途絶え、そして伊集に伝わったとされています。

誰が伝えたかはいろいろ説がありますが、那覇に下男奉公に行っていたナーファーヌヤー（屋号）という人が、那覇から伊集に持ち帰り、息子に教え、その息子が当時の伊集の青年に教えたのが始まりというのが有力な説です。

とぶ、はねる、ひねる ダイナミックで独特な行列踊り

伊集の打花鼓の特徴はなんといってもダイナミックさ。その激しさゆえに20才前後の若者だけで演じられます。特に活発な動きが要求されるブイ、ハンシー、太鼓の役は、せいぜい25才までしかできないので3年くらいで交代しているそうです。

出演者は筑佐事（チクサジ）二人、ガクブラ吹き二人、唐の按司（マンチャーラーウ）一人、フゥジュー持ち一人、御涼傘（ウーリャンサン）持ち一人、ドラ鐘打ち一人、ブイ打ち一人、ハンシー鐘打ち一人、太鼓打ち一人の11名に地謡が2～3人。明らかに中国系の独特な衣裳の名は特についてなく、按司のチン（着物）とかチクサジのチンといっています。

踊りは行列踊りで、三線の演奏で筑佐事、唐の按司、フージョー持ち、御涼傘持ち、太鼓打ちがそれぞれの楽器を演奏しながら踊ります。踊りの所作は独特で、特にハンシー鐘打ち、ブイ打ち、太鼓打ちは中国独特のとぶ、ひねり、屈伸の連続で軽わざ師的にリズミカルでダイナミックに踊り続けます。

毎年旧の八月十五日に地元で演じるほか、要請があれば各種イベントや祭りでも芸を披露しています。

『琉球人座楽并踊之図』より「打花鼓」の図　© 沖縄県立博物館所蔵
上の絵図は、1832年、琉球の尚育王の謝恩使の一行が、いわゆる「江戸上り」の一環として、芝白金の島津邸で行った奏楽舞踊（中国語劇「打花鼓」）を十場面に分けて描いた巻物の一部である。

伊集ターファークー保存会
会長 井口善春 さん

保存会は、中国から伝わった貴重な演技を永久に保存・公開し後継者を育成していこうと昭和56年に結成されました。定期的には毎年八月十五夜に部落の拝所で演じています。あとは県や市町村、団体や企業から要請があれば保存会で検討して年4～5回くらい出演しています。演者は青年会が中心で、OBが指導していますが、ブイ、ハンシー、太鼓の3役は演技力と体力が必要なので3～4年で替わっています。また、後継者育成ということで小学校のPTA文化祭で子どもたちにも教えています。

Chinese Style Tafaku Dance

In Okinawa, the performing art of Chinese style Tafaku dance has been successfully handed down to the present day only in the Iju district of Nakagusuku Village. Although the timing of the introduction of Tafaku from China is not certain, it appears to have first appeared among the 36 families from China in the Kume district of Naha City, and then later spread to Iju. There are a variety of theories about just who introduced this dance. One belief has it that the person was a man known as Nafanuya, an apprentice to a male servant in Naha.
A distinctive characteristic of Tafaku in Iju is just how dynamic it is. The dance is so intense that only young people around the age of 20 are able to perform it. The pattern is in the style of a procession where the dancers perform continuously in a dynamic and rhythmical using light maneuver of jumping, twisting, bending and stretching unique to Chinese dances.

中城の伝統芸能

中城の誇り伝統芸能を後世に伝える

みんなで楽しくエイサー

久場青年会長
新垣宏樹さん

発足まもないし、青年会エイサーなので平均年齢が20歳を切る若いエイサーです。みんな社会人や高校生・学生なので、夏のシーズンなど練習や本番で土・日のスケジュールが大変ですが、みんなで集まってやること自体が楽しいですね。これからはエイサーで得たものを青年会活動にも活かして、いろんなことにチャレンジしていきたいです。

久場青年会エイサー

若くてエネルギッシュまつり、イベントにひっぱりだこ

久場青年会エイサーの誕生は、まだ新しく平成16年のこと。エイサーを通して青年会活動を活発にしたいと発足し、現在の会長で3代目、団員は青年会員35名。沖縄市宮里の東青年会から型をもらい、自分たちで創意工夫しながらオリジナリティをつくり、現在レパートリーは10曲くらいあります。

毎年旧盆の3日間、集落内の各所を回って演舞している他、地域の結婚式、新築祝い、出産祝いでカリーをつけたり、村内外のまつり、イベントなど年間約20回以上も出演しています。

Kuba Youth Association Eisa

The genesis of the Kuba Youth Association's Eisa is relatively young, getting its start in 2004. It emerged out of a desire to energize the Youth Association's activities through Eisa. The Association is active under its president and has 35 members. It borrowed and built on the Eisa model of the Higashi Seinen-Kai in Miyazato, Okinawa City. Generating ingenuity and innovative ideas to create its own original style, the Association has expanded its present repertoire to ten songs.
During the three days of the Bon Festival on the lunar calendar each year, the troupe displays its dances while visiting every location in the community. The Association also enlivens crowds at local weddings, housewarmings, birth celebrations, performing more than 20 times a year at events, festivals and other occasions both inside and outside of Nakagusuku Village.

当間の綱引き

毎年引くニーセージナと7年越しのマールジナどちらも熱く盛り上がる。

当間の綱引は、1886（明治19）年旧7月18日に初めて引かれた120年以上の歴史ある綱引です。中城殿内の奉公人だった比嘉喜保翁が首里のアイジョーウーンナ（綾門大綱）を観て感動し、これをまねてやったということです。

毎年7月16日に引く綱をニーセージナといい、これに対し、7年マール（越し）に引く綱をマールジナといいます。いずれも部落を上下に分けて、上組が雄綱、下組が雌綱を引きます。当間の綱引の特徴は、綱が短く、重くないこともあって、綱を担いだままカヌチ棒を貫くところです。

Toma Tug-of-War

The Toma tug-of-war has a history going back over 120 years when it was first held on July 18th of the lunar calendar in 1886 (19th year of Meiji). Kiho Higa, a servant in the house of the lord of Nakagusuku, saw the aijyou-unna (tug-of-war) take place in Shuri. The event so impressed him that he decided to start a similar contest to follow suit.
The rope pulled on every July 16th is called the "nisejina," but, by contrast, a rope, which has been used for seven consecutive years, is known as "marujina." In both matches, the community is divided into upper and lower halves with the upper team pulling the male side of the rope and the lower team pulling the female side. A distinctive feature of the Toma tug-of-war is that the rope is short and light-weight with a wooden "kanuchi" poll piercing the center as it is held.

伝統の火を燃やす！

当間区自治会長
比嘉三雄さん

ニーセージナは、毎年中部地域の綱引を終わった部落から解体した綱をゆずってもらい、区民総出で打ち直します。手火（テービー）といって、カヌチ棒を貫いた瞬間に、婦人がワラを束ねたものを燃やすのも特徴のひとつです。7年ごとのマールジナは、綱も一回り大きくなるし、上組、下組両方から旗頭の他、サムライと娘のシタクも出て、いっそう賑やかになります。

【村指定無形民俗文化財】

津覇の獅子舞

一頭で雌雄を演じ分ける最大の特徴は二本足立ち

津波の獅子舞の由来は今のところ不明ですが、五百年くらいの歴史があるといわれています。毎年旧の1月2日（初興し）、7月16日（盆供養）、8月15日（十五夜）に、部落の拝所「火之神殿地（ヒヌカントンチ）」で奉納として演じられます。

獅子人衆は獅子（雄、雌）4人、ワクヤー（獅子の誘導役）1人、三線3人、ドラガネ・横笛・ガクブラ・太鼓各1人です。

舞の型としては、一頭で柔らかな所作を主体とした雌の舞と、剛をイメージした雄の舞の両方を演じ分けるのが最大の特徴です。雌の踊りが終わると、演ずる二人が入れ替わり雄の踊りをします。雄は演技の中途で後足の者を肩車、獅子の二本足演技をします。

獅子の演者は、芭蕉の繊維でできた股引き前かけ、足袋を身につけます。昔は獅子人衆は地域で大事にあつかわれ、富里毛の茅が与えられたそうです。

津覇の伝統後継者を担う高校生　　道ズネーの様子

神獅子と遊び獅子

津覇伝統芸能保存会会長
新垣健二さん

ヒヌカントンチで年3回演じるのは「神獅子」といって、本家の糸満家から獅子が出て、呉屋家で旗を出して部落内を道ズネーしてトンチで奉納舞いをします。これとは別に村の行事や全島獅子舞フェスティバルなどに出るのは「遊び獅子」といって、もう一頭あります。現在舞い手は5名ですが、高校生もいるし、次の後継者育成のために、小学生に教えようと、子ども用の獅子舞を2頭つくりました。

Tsuha Lion Dance

The origin of the lion dance in Tsuha is unknown, but legend notes its long history extending back roughly 500 years. It is performed as an offering at Hinukan-Donchi, a place of worship in the community on January 2nd (hatsuokoshi), July 16th (memorial service in honor of the dead during the Bon Festival), and August 15th (the 15th night) according to the lunar calendar each year.

There are four dancers, forming two teams for the male and female lions, one wakuya (lion trainer), three people playing the shamisen and then one person each on the doraganе (Okinawan cymbals), flute, gakubura (a type of wind instrument), and the taiko drum.

The most distinguishing feature of the dance pattern is the inclusion of both a female dance portraying gentle behavior with one lion, and a male dance fashioning the appearance of strength with the other lion. When the female dance concludes, the two performers change places with the other team, who then depict the male dance. In the middle of the male dance, the person performing the hind two legs gets on the shoulders of the person in front to display a two-legged lion dance.

The lion dancers wear split-toe leggings and an apron covering the thighs, which is made of Japanese banana (basho) fibers. Long ago, the lion dancers were highly esteemed in the community and said to have been given fusato-no-kaya (Japanese blood grass).

伝統を引き継ぐ

添石旗頭保存会会長
比嘉信行さん

戦後途絶えていたのを復活するために、首里金城町の自治会から旗の作り方、持ち方を教わりました。現在旗頭の持ち手は30〜40名くらいいます。ハタスガシの他に、新正月2日のカーウビーの日に、中城城跡で毎年旗頭を持ちあげています。これは、若い持ち手の意識の高揚をはかり、添石の伝統を引き継いでもらうためにやっています。

添石の旗頭

ハタスガシの奉納として戦後60年ぶりに復活

添石の旗頭は、平成17年に戦後60年ぶりに復活しました。戦前は村を払い清めるハタスガシのウガンの時に、毎年旗頭が出ていましたが、戦後途絶えていたのを、ハタスガシなのに肝心の旗がなければということで、復活することになったとのことです。

現在は毎年旧7月17日のハタスガシのウガンに、区内4カ所の拝所（ウタキ、ノロドンチ、ウフヤー、イリジョー）で旗頭を奉納しています。戦前と同じように「五穀豊穣」と「楽大平」の2本の旗頭があり、現在は交互に1本ずつ出しています。

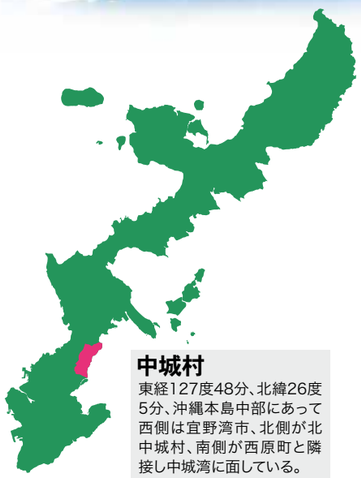
Soeishi Hatagashira

The Soeishi hatagashira or standard bearer tradition was revived in 2005, sixty years after the end of World War II. Before the war, each year people would worship through the performance of amateur theatricals to purify the village, and a standard bearer would emerge. However, the custom was broken off after the war. Local people revived it, saying that unless the all important standard were displayed, how could their theatricals be performed to purify the village.

Today, during the performances on July 17th of the lunar calendar, the standard is raised at four places of worship in the community, Utaki, Norodonchi, Ufuyaa, and Irijyo. Just as before the war, there are two standards, one praying a Gokokuhoujyo(bountiful harvest) and the other for Rakutaihei(peace and tranquility). Only one is brought out at a time, alternating between the two.

中城村マップ

Nakagusuku Village Map



中城村
東経127度48分、北緯26度5分、沖縄本島中部にあって西側は宜野湾市、北側が北中城村、南側が西原町と隣接し中城湾に面している。

9 あがいていだばし Agaitida Bridge

この橋は、歴史の道へと続きます。橋の上からは、中城湾が一望できます。ひと休みしたら歴史の道へと出かけませんか。

This bridge continues on along the Path of History. From the bridge, there is a sweeping view of Nakagusuku Bay. How about heading over to this historical route for relaxing stroll?

10 歴史の道 Path of History

那覇の首里城から中城城へ向かう、かつての街道を復元。見晴らしの良い街道を歴史探訪へ出かけてみませんか。

The old thoroughfare from Shuri Castle in Naha to Nakagusuku Castle has been reconstructed. Why not tour history along the old main road with its wonderful view?

11 オーシャンキャッスルカントリークラブ
Ocean Castle Country Club

中城の豊かな自然の地形をいかし、池やバンカーが絶妙に配置されたレイアウトで、各ホールとも独自の個性を持っています。上級者からシニア、女性までゴルフを愛するすべての方々の挑戦意欲を刺激します。

Constructed to take advantage of the rich nature and terrain of Nakagusuku, each hole on this golf course has its own distinctive character and will stimulate the competitive drive in every golf lover.

12 モーターパラグライダー Powered Paragliding

まるで鳥のように大空から青い海と広大な景色を楽しむ事ができます。地上約200mから見る広大な沖縄の自然を体感してみてはいかがでしょうか？ また、このエリアではジェットスキーも楽しめます。

On a powered paraglider, you can enjoy the expansive scenery and blue sea from the vault of heaven. Many jet skiers are also having fun along this same coastline.

中城村の公共施設
Nakagusuku Village Community Facilities

1 中城村役場 Nakagusuku Village Office

2 中城村商工会 Nakagusuku Village Chamber of Commerce and Industry

3 吉の浦会館 Yoshi-no-Ura Hall

4 村民体育館 Municipal Gymnasium

5 吉の浦公園 Yoshi-no-Ura Park

6 中城村老人福祉センター Nakagusuku Village Senior Citizen Welfare Center

7 児童館 Children's Hall

8 中城浜漁港 Nakagusuku Fishing Port

中城村の文化財
Nakagusuku Village Cultural Properties

A 護佐丸の墓 Tomb of Gosamaru

護佐丸の死後、その子孫の毛氏豊見城家によって築かれたもので、護佐丸をはじめ第七代までの遺骨が安置されているといわれています。現存する亀甲墓としては最も古いもので、文化的にもきわめて価値の高い墓です。

The ashes of the Ryukyuan lord (anji) Gosamaru and his descendants through the seventh generation are enshrined in this tomb. It has a very high cultural value as it is the oldest tortoise-shell tomb in existence.

B 伊舎堂前の三本ガジュマル
Three Gajumaru Trees in front of Ishado

伊舎堂の集落は、中城城跡の近くにありましたが、現在の地に移住するとき、最初に移り住んだ三組の夫婦が記念に植えたと言われていますが、色々な説があります、昔話にも残っています。

Among the many beliefs about the origin of these banyan trees, there is one story that says the three couples, who first moved to the hamlet of Ishado, planted them as a memorial. Legends about these trees are still told today.

C 津覇の龕（ガン）
（県指定有形民俗文化財）
Buddhist Shrine (Gan) Alcove at Tsuha

龕とは遺体を入れた棺を墓まで運ぶもので、現在ではほとんど姿を消してしまいましたが、津覇では龕を保管する建物（龕屋）が保存されているほか、9年ごとに龕を塗り替える行事も残っています。

A gan is used for carrying the funerary box containing a person's remains to the tomb and is rarely seen in use today. In Tsuha, this structure for housing the gan has been preserved.

D 安里のテラ
（県指定有形民俗文化財）
Asato Tera (Prefecture Designated Tangible Folk-Cultural Property)

屋根が低い赤瓦のテラの内部には大小4つの霊石が並べられています。子孫繁栄、無病息災などを祈願する拝所で、沖縄の霊石信仰や洞窟のないテラの形式を知る上で貴重な文化財です。

Inside the tera, four sacred stones ranging from small to large are arranged. At this sanctum, people pray for such things as their descendants' prosperity and good health. This is an important cultural asset for learning about the forms of tera in Okinawa.

E 津覇のテラ Tsuha Tera

霊石（ビジュル）を祀った拝所。「琉球国由来記」によると、津覇のソラ勝連という人が霊石を崇め、宮を建てたのが始まりとされています。ただし、なぜ崇めるようになったかは不明です。

The Tsuha tera enshrines sacred stones. Its origin is attributed to a man by the name of Sora Katsuren from Tsuha who worshiped sacred stones and built this shrine. It is unknown what prompted him to worship the stones.

G 台グスク Castle Mount

中城城跡から数百メートル東方にあるグスク。護佐丸以前に中城を統治していた按司（先中城按司）の居所といわれています。中城村で最も高い位置にあり、絶景の地となっています。

This is an ancient castle site lying several hundred meters to the east of the Nakagusuku Castle Ruins. It is said to have been the residence of the lord who ruled Nakagusuku before Gosamaru.

H 花の伊舎堂歌碑
Monument Inscribed with Hana-no-Ishado Poem

「思ゆらば里前　島とまいていもれ　島や中城　花の伊舎堂」中城を歌った琉歌のなかで最も有名で広く親しまれている歌の碑です。若い娘の素朴な恋心が大らかに表現されています。（1959年建立）

This is the most famous and familiar Ryukyuan poem composed about Nakagusku: "Please visit my birthplace if you so desire. Because I hail from Hana-no-Ishado in Nakagusuku・・・"

F 泊の大クワデーサー
（村指定天然記念物）
Tomari Kuwadeesaa (Village Designated Natural Monument)

地元の言い伝えによると、今から200年ほど前、首里王府から派遣されてきた中城間切番所の役人が任期を終えて離任する際、地元の人との別れを惜しんで植えた記念木といわれています。

According to local legend, this commemorative tree was planted about 200 years ago when a government official, who had been dispatched by the Shuri Court, was reluctantly bidding farewell to the local people as he had been order to leave his post.

中城人に聞く！

Nakagusukun-chu

PROFILE
1925（大正14）年中城村屋宜生まれ。沖縄県立第二中学校卒業後上海の東亜同文書院へ進んだが敗戦で中退。高校教師を経て琉球政府、沖縄県庁の職員になり、主に経済・歴史編集畑を歴任、沖縄県立博物館長で定年退職。1967（昭和42）年『カクテルパーティー』で沖縄初の芥川賞受賞。沖縄を題材に多くの小説、戯曲、エッセーを発表。創作組踊の脚本も執筆、組踊の普及・発展に努める。1990年紫綬褒章、1996年勲四等旭日小綬章、2000年沖縄県功労賞受賞。

大城立裕【作家】
中城は私の文学の出発点で原点

私と中城のかかわり

私は中城村屋宜で生まれましたが、家の事情で7歳までしかいませんでした。ところが、戦後中国上海から中城へ引き揚げて来たのです。

開拓庁という役所やカデナ基地で働いた後、野嵩（のだか）（現普天間）高校の国語教師になりました。高校教師は2年間でしたが、私の生涯で一番充実していた時期でした。生徒たちと勉強したり、演劇を教えたり、また屋宜から普天間まで生徒たちとおしゃべりしながら往き来するのが、ほんとうに楽しかった。今でも中城時代は、私の青春まっただなかのイメージです。

私と中城の文学

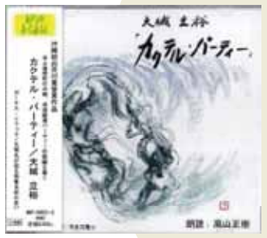
開拓庁時代に戦中世代としての挫折感や将来に対する不安感から執筆を思い立ち、沖縄民政府の脚本募集に応募したら一等当選しました。それが私の文学の出発点です。

また『カクテルパーティー』を書く前に書いた小説『亀甲墓』は、私の家の墓がモデルです。中城を舞台に書いたのは他にもいくつかあるし、直接ではなくても、沖縄の農民を書くときは、中城の原風景抜きには考えられません。それと、いま創作組踊に力を入れていますが、私が組踊を書けるのは、中城の幼少時代によく観た村芝居のリズムが頭にたたき込まれているからです。そういう意味で、中城は私の文学の原点ともいえます。

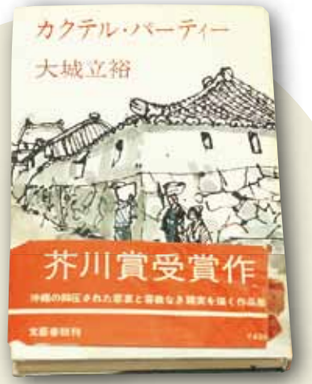
中城の子どもたちへ

私は中城の小・中学校の校歌を作詞しました。そのなかで言いたかったことは、自分のふるさとの歴史を重んじ、勉学に励み、海の向こうの友達とも仲よくしようということです。中城の子どもたちにはそのことを大切にしてほしいですね。（談）

大城立裕文学碑「亀甲墓」（吉の浦会館前）
〈1996年6月建立、設計・與那覇朝大、揮毫（きごう）・大城立裕〉
大城立裕氏が自分の家の墓（屋宜祝女殿内墓（ノロドゥンチ））をモデルに書いた小説『亀甲墓』の一節が刻まれている。



大城立裕氏の芥川賞作品『カクテル・パーティー』をCDで聞く!
今なお変わることのない“沖縄のこころ”を『声』で読むことができる。



『カクテルパーティー』初版本
この作品を書いた頃大城立裕氏は琉球政府経済企画課長。ちょうど計画立案中で連日夜遅くまで残業が続いていた。そのなかで大城氏は「0はいくら重ねても0」という信念で、1日1枚か2枚原稿を書くことを自分に課し、数ヶ月かかって遂に完成したというエピソードがある。

【シンガーソングライター】
普天間かおり
中城に流れる風、時間と自然が私のベース

子どものときから歌が大好きで、ちびっ子歌手として、市町村のまつりやテレビで歌っていましたが、学校の先生、クラスメートや地域の人もみんな温かく見守り、応援してくれました。そのことに今でもとても感謝しています。

いま、ふるさとを離れて思うのは、私が曲づくりするとき、中城湾に登る朝日であったり、中城を流れる季節の風であったり、そこで暮らす人々に育てられたウチナーンチュのおおらかな心や先祖への思いが、ベースになっているということです。

私はいま全国のいろんな施設や学校、病院を訪ねて、歌を通して交流することをボランティアでしていますが、中城でもこうした活動をやりたいですね。

中城にはきれいな海、ゆったり流れる時間、素晴らしい文化・工芸があります。中城の子ども達には、いま目の前にある宝物に気付いて、それを誇りにしてほしいですね。（談）

PROFILE
1973（昭和48）年中城村字屋宜出身。中城小・中城中・北中城高（高1まで、高2から東京の高校）卒。3歳の頃から歌い始め、小学生の頃には既に地元で活躍するようになる。高校2年生で上京し、本格的に音楽活動を開始。1997年にインディーズでミニアルバム「真南風（マフェー）」を発売、沖縄ではメジャー作品を凌ぐ売上を記録する。その後シンガーソングライターとして評価され始め、企業CMなども手がける。2002年、シングル「髪なんか切ったりしない」でメジャーデビュー。その雄大にして繊細な歌唱力で自身のルーツとなる沖縄音楽に独自の解釈を加え歌い継ぐスタイルや、また自作曲での平和や家族などに視点をおいた人を見つめる温かな楽曲の世界観が支持されている。その明るいキャラクターとポジティブな姿勢が支持され、ラジオ、ネットラジオのパーソナリティーとして活躍中。主な作品／シングル「祈り」「守りたいもの」「ハレルヤ」アルバム「ゆがふ」「ゆらぎ」「MONSOON」「Precious」

NAKAGUSUKUN-CHU

PROFILE
1976（昭和51）年中城村字和宇慶出身。津覇小・中城中・北中城高・日体大卒。身長192cm、体重84kg。北中城高ではインターハイ準優勝、日体大ではインカレで優勝。松下電器では日本代表になり2005年まで国際大会に出場。06年富士グラウジースでbjリーグ優勝。07年大阪エヴェッサ移籍、bjリーグ優勝。ポジション・シューティングガード、得意・スリーポイントシュート、フリースローの成功率も高い。

【バスケットボールプレイヤー】
仲村直人
日本を支えるバスケット選手を育てたい

中城中学校時代にバスケットボールを始めましたが、バスケットを通して得た友達や恩師、仲間は今でも最高の宝物です。バスケットというスポーツはチームプレイであり、お互いを助け合い、励まし合い、称え合うなど、社会に出てからの人生に大きく役立っています。

勉強やクラブ活動、友人や先生との交流など学校ではいろんな体験ができます。その中から自分の好きなものを見つけてほしいですね。好きになったら、大変なことも大変でなくなるので、勉強もスポーツもうまくいきます。

これからはバスケットを通して、将来日本を支えるバスケット選手を育て、中城村の活性化にも協力していきたいですね。（談）

【中城農産加工所】中城の特産品である島人参をベースに島人参カステラ、ドレッシング、漬物、その他うっちん、ゴマ、大豆などの加工販売。 ☎ 098-895-2345

おいしい、やさしい「中城の味」づくり

中城農産加工所 **新垣ヨシ子**さん

生活改善グループが解散したため、10年前に中城農産加工所を立ち上げ中城特産の島にんじんをメインに特産品作りに頑張っています。今は娘と嫁の３人でメインの島にんじんを使ったカステラ・ドレッシング・万能タレのほかパパイヤ・大根・キュウリの漬物、モズク・ヒジキの佃煮など約13品目つくり、ギフトセットにして直売しています。すべて手づくりなので味の安定化と添加物を一切使っていないので賞味期限に苦心しています。これからも、いろんな商品を開発して、ひとりでも多くの人に「中城の味」をアピールしていきたいですね。

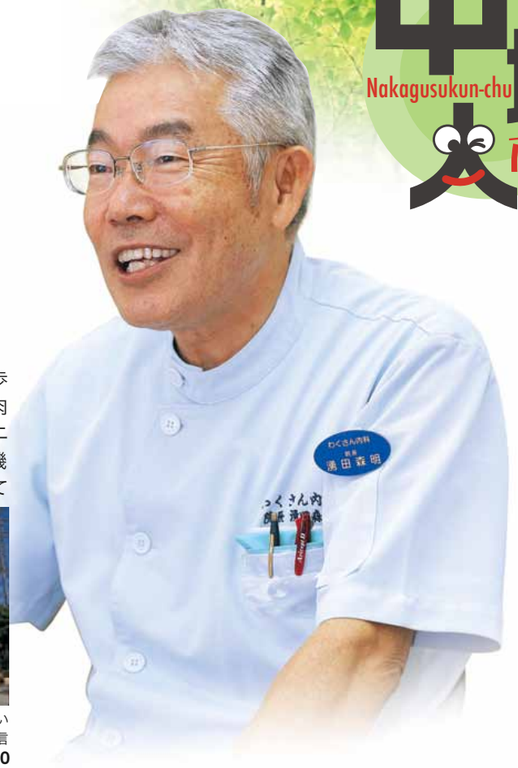
中城村を沖縄一の長寿村にしたい！

わくさん内科院長 **湧田森明**さん

私の信念は、老化はすべて筋肉の衰えが原因ということです。歩けなくなる、しゃべれなくなる、物を飲み込めなくなる、すべて筋肉の衰えから来ています。ですから患者さんにはいつも筋肉トレーニングやウォーキングを薦めています。ここにはリハビリや筋トレの機械がないので、家で自分で出来る事を私が実際にやりながら教えています。これが実れば中城村が沖縄一の長寿村になることも夢ではありません。

将来的にはリハビリや筋トレ、スポーツができ、寝たきりの方は歩けるように、歩けるようになったら運動ができるようになり、元気で長寿をまっとうできるような施設をつくりたいですね。

【わくさん内科】日曜日（午前中のみ）も診察していることから、湧田医師の地域医療を大事にする信念が伝わってくる。 ☎ 098-895-1900



豊かな心を育てる人づくりを目指して

Aiming at building a community of responsible people on a global level

ひとりでも多くの命を守るために

中城北中城消防署救急係 **大城光輝**さん

私は消防・レスキューも交替でやりますが、救命士と気管挿管、薬剤投与の資格を持っているので救急がメインです。現場では、迅速・適切な処置をすることは当然ですが、患者さんのメンタル面でのケアやご家族の気持ちも考えた行動をするように心がけています。通常３人で出動しますが、まず患者さんの症状をよく見て、どの病院がいいか判断します。チームワークと病院との連携が大事です。それと私たちが到着するまでのまわりの人の処置が命の分かれ目になることが多いので、人工呼吸、心臓マッサージのやり方やＡＥＤ（自動体外式除細動器）の使用法を村民に普及しています。

1分、1秒を争う救命救急の現場では仲間との連携が大事になる。日頃の訓練はかかせない。

未来を拓く活力に満ちた村です。

A village full of energy facing the future

強まる絆とやる気で地域を活性化

和宇慶護佐丸太鼓 **新垣しのぶ**さん

護佐丸太鼓は平成８年の結成で、私はそのときから参加しているので、もう14年目になります。最初は母（ひろみさん、護佐丸太鼓代表）にひっぱられてやっていましたが、続けていくうちに、生活の一部になりました。今は子供たちの指導と振り付けもしています。メンバーは村内の３歳から小・中・高校生と大人で約120名です。村内のイベントを中心に各地のエイサーなど年間約40回出演しています。週２回の練習と公演でメンバーの腕も上がっていますし、絆も強まっています。これからもずっと続けていきたいし、自分たちで企画する自主公演も増やしていきたいですね。

「中城まつり」、「中城文化まつり」など村内外のイベントを精力的に取組む姿勢はこれからの中城村を支える大きな財産。

とよむ 中城村

中城村は、誇りある歴史と豊かな美しい自然に恵まれ
産業・教育・文化の町として発展してます。

Nakagusuku Village

環境がとよむ

中城村の新たな環境づくり
歴史と文化とともに住む。
自然が豊かなまちづくりを
目指します。

人がとよむ

中城村民の暮らしが
豊かになるように。
楽しい交流の場には
笑顔が集まります。

仕事がとよむ

農業・漁業に
新しい特産品もいっぱい。
商工業地域も活力に
あふれています。

村民参加の活気ある村づくりを

Creating a village where residents take an active part

行政 Municipal Administration

中城村は、二十一世紀の高齢化、情報化、国際化などの時代潮流に対応し、個性的で活力ある村づくりをめざしています。その中で、地方自治に基づき、村民参加型の村政をめざし、情報公開、住民参加、ネットワーク化による事務処理の効率化などきめ細やかな行政サービスの向上に努めていきます。

中城村役場　Nakagusukuson yakuba

Municipal Administration

Nakagusuku Village is endeavoring to create a distinctive and vibrant village to address the aging society, informatization, internationalization and other trends of the 21st century.
The municipality strives to improve the finer points of its administrative services by publishing the Nakagusku Newsletter to inform residents about village events and municipal information, creating the Nakagusuku Village website, and fairly administering elections in which the village election council takes a central role.

【広報なかぐすく】
「広報なかぐすく」を発行し、行政の情報、村の行事を村民へ広報しています。

【中城村ホームページ】
中城村ホームページでは、行政情報をより迅速で正確に公開しています。

http://www.vill.nakagusuku.okinawa.jp/

【選挙】
民主政治の基本である選挙は村選挙管理委員会が中心となって公正な管理をしています。

学校教育・社会教育・生涯スポーツ

School Education, Social Education, Lifelong Sports

学校教育 School Education

近年、学校教育を取り巻く諸情勢が大きく変化しており、新たな課題も生じています。本村では村教育委員会を中心に、学校、家庭、地域及びＰＴＡや子ども会との連携のもと村ぐるみでこれらの課題に取り組んでいます。又、地域における伝統行事・スポーツ行事・自然体験など、生涯を通した人間性豊かな人材の育成をめざしています。その他、急速に進む情報化社会に対応するため、小中学校にパソコンを設置し、児童生徒の情報活用能力の育成を図っています。

社会教育 Social Education

社会教育に対する村民ニーズの増大や多様化をふまえ、生涯学習課を中心に文化歴史講座などを開講し、社会教育活動をサポートしています。吉の浦会館は、村民の社会活動の中心となり、子供から大人まで多くの村民が学習しています。

吉の浦会館
Yoshi-no-Ura Hall

中城城跡ガイド養成講座
Course for training guides for the Nakagusuku Castle Ruins

生涯スポーツ Lifelong Sports

健康づくりや生きがいづくりのため村民誰もがいつでも、どこでも自立的に実践できる軽スポーツを推進しています。また、スポーツ教室・講習会の開設や指導者の養成など普及活動の充実を図るとともに、吉の浦公園を中心にいろいろなイベントを行っています。

トリムマラソン　Trim Marathon

School Education, Social Education, Lifelong Sports

In school education, the village board of education takes the lead for the entire village in association with schools, households and the community as well as the PTA and children's groups to address the changing circumstances of school education.
The Lifelong Learning Section holds culture and history classes and supports social education activities.
To urge residents to engage in sports throughout their life, light sporting activities are promoted so that any village resident is able to take part anywhere, anytime in an effort to promote residents' health and their satisfaction with life.

中城陸上大会
Nakagusuku Track & Field Meet

児童福祉＆母子・父子福祉 Child Welfare and Welfare for Mothers & Fathers

児童が心身ともに健やかに育つよう、村立保育所、地域子育て支援センター、児童館などの児童福祉施設を拠点として、安心・安全な環境を整え育児支援や健全育成を目指しています。子育て家庭に対する育児相談や季節のイベント企画、児童生徒の健全な遊び場の提供やレク・ゲーム大会、作品の制作会などに大勢の参加があります。

ベビーマッサージ　Baby massage class

食育講座　Nutrition class

母子及び父子家族の生活支援のため、医療費の一部助成を行い負担の軽減を図り、また、児童扶養手当の受給を促し福祉の充実を図っています。

先生とゲームに熱中　Enjoying a game with the teacher

鯉のぼり集会　Carp Streamer Rally

動物ふれあい教室　Animal communication class

【親子リトミック教室】
母子の健康状態を観る事はもちろん、子どもとの時間を大切にできるよう、ゲームをしたり、楽しく過ごします。

Mother & child rhythmic class
Playing games and enjoying time spent with their children helps parents treasure such moments and serves to care for health of both parents and children.

Child Welfare

In addition, so that children grow up healthy both physically and mentally, the municipality is striving to foster a sound upbringing and support for childcare by constructing a safe and secure environment with the aid of municipal childcare facilities, community childcare support centers, children's hall and other child welfare institutions.
Many people participate in childcare consultations provided for families with children, planning for seasonal events, as well as recreation and game meetings. Safe playgrounds for children are also provided along with arts & crafts workshops and many other kinds of events.

Welfare for Mothers & Fathers

In order to support single-mother and single-father families, Nakagusuku Village is working to improve welfare by alleviate the burden on families through assistance for some medical expenses and speeding up the receipt of childcare allowances.

健康体操　Fitness exercises

高齢者福祉 Welfare for the Elderly

在宅高齢者とその家族の支援、生きがいづくりへの支援など、高齢者が自立しながら暮らせる住みよい地域環境づくりを積極的に進めるため、中城村地域包括支援センター、介護予防事業、配給サービス、緊急通信システム、敬老祝い金支給事業、地域敬老事業補助金などの各種高齢者福祉サービスを実施しています。また、本村には特別養護老人ホームや老人保健施設が立地し、デイケア、デイサービスなどの介護保険サービスを行っています。

ゲームに熱中　Avid game fans!

レク部による舞踊
Recreation group practicing dance

［ふれあい事業］
高齢者や地域社会の支えを必要としている方々との、「ふれあい」活動を行っています。現在は、当間、浜、南上原、奥間、北上原、伊集、登又、和宇慶、津覇、久場で月一回、児童との交流会やピクニック、ゆんたく会等を通じて、高齢者の生きがいづくりや住民の健康意識の高揚に努め、老いても安心して暮らせる地域づくりを進めています。

健康対策 Health Policy,

村民一人一人が自らの健康管理が図れるように健康増進への取り組みを積極的に展開しています。保健師による健康相談などの健康増進事業を始め、幼児、児童・生徒に対する各種予防接種、婦人の子宮ガン検診、乳幼児健診などを実施しています。

Health Policy,Welfare for the Elderly People Facing Disabilities

As part of its health policy, Nakagusuku Village undertakes projects to promote health including consultations with public health nurses and offers vaccinations for infants, young children and students.
In addition, there are a variety of services extending welfare to the elderly, such as support to improve quality of life as well as home care for the seniors and their families, in an effort to create a community environment where the elderly can live soundly and independently.
To establish a community where people can live free from anxiety into their elder years, activities are conducted to help people who need elderly and community assistance to communicate and talk with others.
As for welfare for people dealing with physical and mental challenges, a variety of services are offered to people who face a disability through consultations and other assistance to encourage independence and participation in social activities.

障がい者福祉 People Facing Disabilities

共同作業所で焼きイモ作り　Baking sweet potatoes at a welfare workshop

障がい者の社会活動への参加と自立を図るため、障がい児者相談事業を中心として、各種の障がい福祉サービスの提供を行っています。社会福祉協議会へ委託している障がい者地域活動支援センター事業を通して、障がい者の生きがい創出に努めています。

各種団体活動の育成
Fostering Group Activities

中城ジュニアオーケストラ
Nakagusuku Junior Orchestra

1980年8月、沖縄県内で初のジュニアオーケストラとして誕生。結成以来、「継続は力なり」を合言葉に、「母の日コンサート」を毎年開催するなど活発な活動を続け、「きび畑の中のオーケストラ」として親しまれています。これまで「沖縄県青少年育成県民会議」「宜野湾地区少年補導員協議会」等から表彰を受けました。

毎週土曜日、中城小学校のひかりホールで午後2時から5時まで練習。団員募集中。

中城ジュニアオーケストラ Nakagusuku Junior Orchestra

子ども会 Children's Community

中城村子ども育成会では、福岡県福智町との交流活動による文化交流や子ども農園「じゃがいも」作りを通した自然体験など、地域学習の場を広く提供し、他人と協調し思いやりのある人間性豊かな心を育てています。またこれら活動を通して、将来の中城村のリーダーの育成にも努めています。

福岡県福智町との交流
Exchange with Fukuchi Town in Fukuoka

じゃがいも収穫のちカレーにします
Harvesting potatoes to make curry

老人クラブ Elderly Clubs

中城村老人クラブ連合会では、古典音楽、手芸、レク、カラオケ、囲碁、大正琴、ボウリングなどのサークル活動が活発に行われ、ゲートボール大会、レクリエーション大会、老人婦人運動会などを開催し、会員の融和や健康づくりも図られています。

レク部　Recreation club

新春ゲートボール大会
New Year Gateball Tournament

婦人会 Women's Circle

中城村婦人連合会では、村内を緑と花で包む運動「美化コンクール」や料理講習会、知識と教養を高めるための勉強会など、積極的な活動を行っています。また、子ども会や老人クラブ等と連携しながら明るく楽しい村の発展に努めています。

老人・婦人合同レク交流大会
Recreation tournament for the elderly and women

アイキャッチ作戦
"I Catch" operation to prevent drunk driving

Nakagusuku Junior Orchestra, Children's Group,Elderly Clubs, Women's Circle,

The Nakagusuku Junior Orchestra, the first junior orchestra in Okinawa Prefecture, was founded in August 1980, and has actively continued to give concerts, including the annual Mother's Day Concert. It is fondly known as the "orchestra in the middle of sugarcane fields." The Nakagusuku Village Child Development Association offers many opportunities for community learning, including cultural exchanges and nature experiences in which children plant and harvest potatoes at a farm so as to foster a rich humanity in children and encourage consideration of and cooperation with others. In addition, the Nakagusuku Elderly Association holds gateball and recreation tournaments as well as group activities for classical music, handicrafts, karaoke, the game of go, and so on. The Association strives to promote health and harmony among its members.
The Nakagusuku Women's Association actively holds study groups, cooking classes as well as the Beautification Competition, a campaign to cover the village with flowers and greenery.

中城村全戦没者慰霊祭
Nakagusuku Village memorial service for all the war dead

Peace Deployment Project & Memorial Service

Nakagusuku Village is working to raise peace awareness and train tomorrow's leaders to promote peace by sending junior high students to participate in the Youth Peace Forum held in conjunction with the Nagasaki Peace Memorial Ceremony in August every year. Also, the Nakagusuku Village memorial service for all the war dead is held annually. Many residents and families of those who died attend each year. At the ceremony, people ask for peace and offer a moment of silence to the spirits of those who lost their lives during the war.

青少年ピースフォーラム　Youth Peace Forum

平和の波　Wave of Peace

平和・安全
Peace & Safety

平和派遣事業・慰霊祭 Peace Deployment Project & Memorial Service

毎年8月に開催される長崎平和祈念式典にあわせて開催される青少年ピースフォーラムに村内の中学生を派遣し、平和推進のリーダーとなる人材の育成と平和意識高揚に努めています。また、中城村全戦没者慰霊祭を毎年開催し、多くの遺族や村民の方々が参列の上、平和を願い戦没者の御霊に黙とうを捧げています。

平和の風モニュメント
Winds of Peace Monument

消防・救急・交通安全 Fire-fighting, Emergencies & Traffic Safety

中城北中城消防署では、村民に対して日常的な防火・消火・救急などの基礎的な知識の普及や避難訓練などを強化し安心安全な地域環境づくりをめざしています。住宅用火災警報器の設置に向けた広報も強化しています。

中城村交通安全推進協議会を中心に家庭、地域、学校及び各種団体など村ぐるみで交通安全運動を行っています。飲酒運転の防止や交通安全の啓発活動など日常的な交通安全の確保に向けた取組を行い交通事故のない安全なまちづくりをめざしています。

いかなる時にも緊急出動できるように、日々訓練を行っている消防署の皆さん。また、警察署の方では交通安全教室をひらいたりして村民の安全を守っています。

交通安全教室もあります。
Traffic safety course

ちびっこ消防士大活躍！
Junior firefighters in action!

敏速に対応する救急隊員
Quick response rescue squad

Fire department personnel train daily so they are ready to mobilize for an emergency at any time. Police personnel hold classes on traffic safety and work to keep residents safe.

Fire-fighting, Emergencies & Traffic Safety

The Nakagusuku-Kitanakagusuku Fire Station aims to create a safe and secure community environment by strengthening evacuation training and other measures as well as provide village residents with basic knowledge about everyday fire prevention, fire fighting and emergencies. In addition, the Nakagusuku Traffic Safety Promotion Council spearheads traffic safety campaigns with households, the community, schools and various other village groups.

地域間交流・国際交流

Interregional and International Exchange

旭市との交流 Exchange with Asahi City

友好交流市村である旭市と毎年夏と冬に児童の交流を行っています。児童交流を通して、豊かな人間性や社会性を養い、学校・地域のリーダーとして21世紀の中城村を担う児童育成にも努めています。

子供名刺交換会
Children exchanging business cards
旭市の小学生を中城村に招待し、村内の観光やゲームで親交を深めました。それぞれのふるさとに戻っても文通やメールでのやりとりをしている子もいるそうです。

月の砂漠記念像にて　At the Memorial Statue of Moon Desert

Exchange with Asahi City

Exchanges are held annually in the summer and winter between the children of Nakagusuku Village and Asahi City, a friendship and exchange municipality. Through these children's exchanges, a rich humanity and sociability are cultivated as well as an effort made to encourage children to take responsibility for Nakagusuku Village in the 21st century as school and community leaders.

旭市との交流　Exchange with Asahi City

海外短期留学・海外移住者子弟研修生

Study Abroad and Children of Okinawan Emigrants

中城村は戦前・戦後を通じて県内有数の移民出母村であり、各国で村人会が活動しています。村では、平成８年度より海外移住者の子弟を研修生として受け入れ、各国と友好親善を図り、各国村人会のリーダーとして活躍する人材の育成を目指しています。

また、中学生・高校生を夏休みの３週間アメリカへ派遣し、国際性豊かな人材を育成し、国際社会に適応する能力や資質の向上を図る目的で、海外短期留学派遣事業を行っています。

海外短期留学　Short-term study abroad

Study Abroad and Children of Okinawan Emigrants

Since 1996, Nakagusuku Village has hosted as trainees the children of Okinawans who emigrated overseas, and worked to encourage friendship and goodwill with other countries. Also, local junior and senior high school students are sent to the United States for three weeks in the summer to educate and foster young people to be internationally-minded.

海外移住者子弟研修生　Children of emigrants studying as trainees

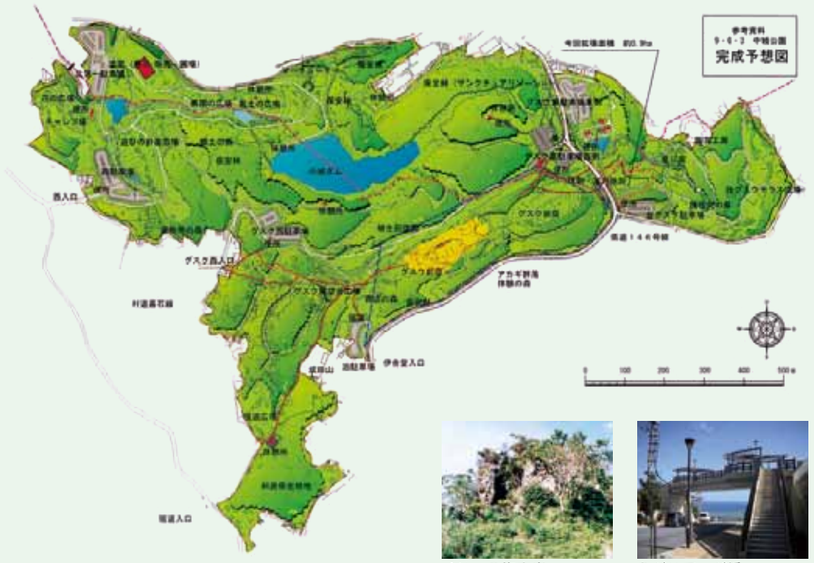
海外の子どもたちとの交流　Exchange with children abroad

歴史・自然環境・公園の整備

Preserving History and Maintaining Parks and Natural Environment

歴史的自然環境の保全・活用

Preserving and Making the Most of the Historical Natural Environment



本村は中城城跡をはじめ、護佐丸の墓、安里のテラ、新垣グスク、ペリーの旗立岩など優れた歴史的景観を特徴づける多くの文化財が先人から受け継がれています。

2000年の中城城跡の世界遺産登録を機に、城跡から首里へ向かう歴史の道（ハンタ道）整備事業も着手され、城跡の修復、城跡周辺の景観保護地区（バッファゾーンの保全、発掘された出土品の展示施設の整備、文化財案内人の充実・強化等、歴史的自然環境の保全と活用を図っていきます。

又、現在中城城跡を中心とする県営中城公園整備事業が行われており、その中にある「古墓群」の文化財指定も行ってゆく予定です。今後は文化財の歴史的、学術的な調査・研究を進め、それら調査研究などの成果を生かし、展示と歴史学習の場の拠点づくりを行っていきます。

ペリーの旗立岩

あがいていだ橋

新垣集落跡石畳

高地陣地

Preserving and Making the Most of the Historical Natural Environment

Nakagusuku Village has outstanding cultural properties, such as the Tomb of Gosamaru, Asato Tera and, of course, the Nakagusuku Castle Ruins. With the opportunity presented by the registration of the Nakagusuku Castle Ruins as a World Heritage Site, work was commeced to preserve and make the most of the historical natural environment with a project to improve the Path of History (Hanta Path) from the castle ruins to Shuri, restoration of the castle ruins, and the maintenance of a buffer zone to protect the scenery around the ruins. In addition, the Okinawa Prefecture Nakagusuku Park Improvement Project, which is mainly concerned with the Nakagusuku Ruins, is underway, and there are plans to designate a "collection of ancient tombs" as cultural properties.

歴史の道

南上原から始まる歴史の道は中城城跡まで続き、途中多くの文化財を目にすることができます。

Path of History

Walking along the Path of History beginning at Agaitida Bridge and continuing on to the Nakagusuku Castle Ruins, many cultural properties can be seen along the way.

公園・緑地の整備

Improving Parks and Green Spaces

吉の浦公園は、総合的な運動施設など多様な野外活動施設を備え、村民をはじめ広域的なスポーツ・レクリレーションの拠点となっています。また、農村公園や児童公園などを地域単位で計画的に整備しており、住民の日常的な交流や憩いの場となっています。

吉の浦公園（手前から野球場、陸上競技場、テニスコート）
Yoshi-no-Ura Park （From the near side, a baseball field, tennis courts, and athletic field can be seen.)

Improving Parks and Green Spaces

Yoshi-no-Ura Park provides a variety of facilities for outdoor activities, such as a comprehensive exercise facility. It is a base for a broad range of sports and recreation for village residents and others. Also, on the community level, plans are being made to develop a children's park and farming village park to provide a place for residents to get together or relax every day.

環境がとよむ

市街地の整備・環境衛生・上下水道

Urban Improvement, Environmental Hygiene, Water Supply and Sewage

南上原土地区画整理事業
Minami Uehara Land Readjustment Project

南上原土地区画整理事業では、地区の特性である自然と調和する生活環境をもった良好な市街地整備を目指して、琉球大学を核とした都市基盤整備を行っています。

自然環境を守りつつ、健全な市街地形成を図る本事業は、中城村のまちづくりの先導的役割を担っており、道路や公園等の公共空間のさらなる資質向上を図るとともに、「地区計画」の導入や「ふるさとの顔づくりモデル土地区画整理事業」の指定（平成6年11月）を受け、魅力とうるおいに満ちた街づくりを促進しています。

Minami Uehara Land Readjustment Project

The aim of this project is to make excellent improvements to the urban area so the living environment is in harmony with the characteristic nature of the area. Improvements are being made to the urban infrastructure around the University of the Ryukyus.

ごみ収集・リサイクル・上下水道
Waste collection,Recycle,Water Supply and Sewage

北中城村と一体となって中城村北中城村清掃事務組合を昭和51年に設立し、中城村に、ごみ処理施設「青葉苑」、北中城村に、し尿処理施設「青海苑」が運用されたことにより、良好な生活環境衛生の向上に努めています。

また、ごみ排出量の増大や質的多様化をふまえ、今後ともごみ対策に対する理解と意識高揚を図り、資源ごみのリサイクルや生ごみの自家処理などを促進するとともに、ゴミ収集の有料化に伴い、ごみの減量化、リサイクル化に対応した処理体制の確立を図っていきます。

ごみ処理施設　青葉苑　Aobaen Waste Processing Facility

【上下水道】

上水道は、村民生活の利便性や快適性の向上に大きく寄与し、おいしく、安全な飲み水の供給と公衆衛生の向上に努めています。今後は渇水対策の考えから家庭における節水型の水利用をしていきます。また、快適な生活環境を創出するために公共下水道の整備事業が進められ、生活汚水の衛生的な処理体制をめざしていきます。

ごみ処理　Waste disposal

ごみ分別作業　Waste collection

水飲み場　Water fountain

Aobaen Waste Processing Facility

Together with Kitanakagusuku Village, Nakagusuku Village established the Nakagusuku Village & Kitanakagusuku Village Sanitation Affairs Association which operates the Aobaen waste processing facility in Nakagusuku Village and the Aobaen septic processing facility in Kitanakagusuku.

Water Supply and Sewage

The municipality is making a effort to improve public sanitation and provide delicious and safe drinking water. In addition, improvements are also being made to the public sewage system to create a comfortable living environment.

仕事がとよむ

愛情こもった中城産トマトです　Tomatoes grown with tender care in Nakagusuku

農・漁業の振興
Agriculture and Fisheries Promotion

農　業 Agriculture

中城村は農業が盛んな村として知られ、サトウキビを基幹作物とし、野菜類、花き、亜熱帯果樹、畜産など温暖な気候を生かした幅広い農業が行われています。特に島にんじん、島大根は県内でも特産品として位置づけられています。

生産性の向上を目指して、平野部では土地改良事業が行われ、また、農業の活性化を図るため、農村環境の整備を推進し、生産組織の育成と担い手の育成に努めています。

島にんじん、たくさん収穫しましたよ
Bountiful harvest of Okinawan yellow carrots

キビ刈り風景（2月）
Harvesting sugarcane (February)

煮崩れしにくいと好評の島大根

漁　業 Fisheries

中城村は、延縄、刺網、定置網を主とした漁業を行っています。平成20年度には、製氷設備も改修され、良質な氷を確保することができるようになったことにより、長時間の水産物の鮮度保持や遠方への輸送が行いやすくなりました。また、沿岸海域の環境特性を生かし、シャコガイの放流試験、タマンの中間育成・放流などの栽培事業にも着手しており、活力ある漁業生産の拡大に努めています。

また、現在、平成20年度から24年度にかけて浜漁港の再整備事業を実施しています。漁業の安全性と利便性の向上が図られるとともに、外郭・就労施設の整備も計画されており、就労環境の改善が期待できます。

Agriculture & Fisheries

Agriculture flourishes in Nakagusuku Village where a broad range of crops are cultivated by taking advantage of the warm climate, such as sugarcane, vegetables, flowers, tropical fruits and livestock is being raised as well.
In the fishery industry, stock enhancement has been initiated including intermediate breeding and release of Spangled emperor, test releases of giant clam as well as principally longline, gill netting, and stationary net fisheries.

中城村の特産品は大人気！　年々増えています！

楽園おきなわ なつめ

宮城漆器（螺鈿）

朝日陶器 かめ

マンゴー

楽園おきなわ 島らっきょう チップス

黒麹屋もろみ酢

島だいこん

沖縄ホーメル コンビーフハッシュ

中城農産加工所 モズク佃煮

田いも カーサもち

沖縄ホーメル チラガースモーク・アイスバイン ボルトキューソーセージ

テクノダイエイ海ぶどう

島にんじん

手づくり菓子の店なかとみ 田いもパイ

中城農産加工所 島にんじんカステラ

手づくり菓子の店なかとみ 田いももち

はごろも牧場 （やぎみるく・ヨーグルト・チーズ）

きなこや 琉球プリン （黒糖・紅いも・マンゴー）

朝日陶器 シーサー

Specialties of Nakagusuku Village

There are many specialties produced with resourcefulness and skill that make the most of Nakagusuku Village's geographical advantages. A wide variety of goods are available from agricultural products incorporating the wealth of the soil, finished products putting such ingredients to good use, craft works applying the craftsman' s skill and other new products coming out every year. There are numerous specialties made with care from a rich variety of natural ingredients and are the pride of the community.

商品のお問い合せ・ご注文はホームページを御覧になってください。
または中城村商工会 TEL（098）895-2136 まで、お問い合せください。

商工業・観光

Commerce, Industry and Tourism

中城村の特産品

Specialties of Nakagusuku Village

中城村には、地の利を活かし、知恵と技術が生んだ特産品がたくさんあります。大地の恵みを受けた農産物、それらを活用した加工品、匠の技を凝らした工芸品、新しく仲間入りしたものまでさまざま。自然に育まれた豊かな食材に愛情を込めた地域自慢の特産品の数々です。

サンエーなかぐすく店
San A Nakagusuku

Commerce & Industry

As for commerce in Nakagusuku Village, a broad base of commercial activity is continuing to be developed to meet not only local demand, but also demand from outside the village as well. The principle industries are food processing, as well as iron and steel manufacturing and processing. In the area around the Yoshi-no-Ura thermal power station, currently under construction, revitalization is moving forward to secure employment and attract companies predominantly for electric power facilities in the surrounding area.

吉の浦火力発電所（イメージパース）
Yoshi-no-Ura Thermal Power Station (illustration)

商工業 Commerce & Industry

本村の商業は、地元に限らず村外需要に対応した広域的な商業活動が進展しつつあります。工業では食品加工、製鉄加工業などが主になっています。現在建設中の吉の浦火力発電所の周辺地域では、電力施設周辺地域を重点的に企業誘致を進め、雇用の確保、地域の活性化を進めていきます。

観　光 Tourism

世界文化遺産に登録された国指定史跡「中城城跡」は、村民の大きな誇りで本村の観光の主体であり、現在は中城城跡保存整備事業により城壁等石積みの修復、発掘調査等を行っています。また、周辺においては県営中城公園の整備、文化財の保護などの事業が進められ、久場の海浜では、マリンスポーツ等や南上原のあがいていだ橋からの景色も綺麗です。

Tourism

Residents take great pride in the Nakagusuku Castle Ruins, which have been registered as a World Heritage Site for tourism and are the core of village tourism. Currently, the stonework is being restored and excavations are being conducted under a project to preserve and improve the castle ruins. In addition, the municipality is working to attract sightseers from inside and outside Okinawa Prefecture by releasing a tourist pamphlet and promoting the charm of Nakagusuku Village.ctric power facilities in the surrounding area.

【観光パンフレット】

中城村観光パンフレットは、中城村の魅力をアピールし、県内外からの観光客の誘致を図っております。

とよむ 21行政区

あふれる自然と活力あるコミュニティー

中城村には21の集落があり、中城城跡をはじめ歴史的な文化財が数多く残る、中城湾を面した自然の中で、活気溢れる村です。

1 安　里 【あさと】

海岸近くに吉の浦公園があり、平坦部の一角にはビジュル信仰の対象となっている安里のテラ（安里権現）がある。その周辺一帯は、土地改良事業が進められているが、安里のテラの聖域はそのまま保持されている。殿地山に殿があり、その東側に安里クボーと称する丘があり、そこに拝所がある。集落の西側の丘陵地にグスク時代の遺跡があり、サトウキビの生産も活発。

2 新　垣 【あらかき】

12～13世紀頃に作られたといわれる新垣グスク跡には集落跡があり、古い遺物も出土した。新垣グスクの北側にターチシーと呼ばれる二つの岩山があるが、これが1853年ペリー提督の探検隊が旗を立てた「旗岩」。新垣の頭部には中城城跡に通じるハンタミチ（端道）という昔からの道がある。

3 伊舎堂 【いしゃどう】

添石に隣接し、昔からシーシ、イシャドウと併称された。かつての古い集落は、久場の台城附近の伊舎山に立地していたというが、人口の増加と農業の進歩につれて現在の肥沃な平坦地に移動したと推定されている。三本ガジュマルは有名であり、琉歌の「思ゆらば里前島とまひていまうれ　島や中城　花の伊舎堂」も県民に広く知られている。

4 伊　集 【いじゅ】

村の最南部に位置し、西原町と接している。地名は、集落後方の杣山にイジュの木が繁っていたことから名付けられたという言い伝えと、魚がたくさん集まったことにちなんでいるという説もあって定説はない。古くから民俗芸能が発達し、中でもターファークーと伊集早作田は有名。また、伊集のガマク小や真加戸樽、比嘉ナビーなどの美人の史実や伝説も広く知られている。

5 奥　間 【おくま】

国道西側の部落内には学校給食共同調理場がある。津覇との境界線、集落の南西部には琉球大学、那覇方面へ通じる村道があり、県道的役割を果たしている。斜面部の地形は必ずしも農耕地として最適とはいえないが、盆地状の地形を活かして花卉園芸の生産が起こりつつある。

6 北上原 【きたうえばる】

廃藩置県後に、首里や北谷などから移住した人々によってつくられた屋取集落で、新垣・当間・安里・奥間に所属していたが、明治36年以降分離独立して行政区になった。標高161メートルの高い丘があり、そこからは太平洋が一望できる。集落は南北に走る県道29号線沿いやがじまる原を中心に各地に点在し、中央には中城小学校北上原分校がある。

7 北　浜 【きたはま】

廃藩置県後、土地整理までの間に、首里から一部は津覇に、主として和宇慶の北浜原に移住して形成された屋取で、昭和12年に南浜とともに和宇慶から分離独立した。村内では、最初に土地改良事業が実施され、昭和57年からはビニールハウスが導入され、トマトなどの野菜類が栽培されるようになり現在にいたっている。中城でも有数な農業地帯である。

8 久　場 【くば】

久場は方言でもクバと言い、その地名はビロウ（クバ）にちなむとされている。沖縄戦までの集落は現在の集落の北東部にあったが、米軍に接収されたために移動、その後、昭和56年に返還され、旧敷地に移動しつつある。

9 県営中城団地 【けんえいなかぐすくだんち】

平成4年4月に誕生した自治会。県道29号線の南上原から国道329号の奥間を結ぶ道の途中に位地し、眼下には美しい中城湾が広がっている。自治会では、8月の夏祭り、1月の餅つき大会のほか、村のバレーボール大会やソフトボール大会、ボウリング大会などにも積極的に参加しているほか、子供会も村の子供会の行事に参加し、地域内外の交流を深めている。

10 県営中城第二団地 【けんえいなかぐすくだいにだんち】

平成11年4月に新しく自治会として誕生した。海に近く静かな環境に恵まれている。子供会と自治会が一体となった活動は盛んで、毎月の清掃から正月のイベント、ジャガイモ掘りなど親子で楽しく取り組んでいる。また村の陸上大会などにも字を挙げて参加。今後、コミュニティ資金を活用してさらに活発な交流を目指している。

11 サンヒルズタウン 【さんひるずたうん】

サンヒルズタウンは登又と新垣に隣接し、北上原から北中城村へ向かう県道29号線の途中に位置する。平成6年7月に自治会を発足させ現在は、子どもからお年寄りまで総参加の夏祭りや子ども会を中心としたクリスマス会、救命講習会など様々な活動を行っている。

12 添　石 【そえし】

村立老人福祉センターのそばには「レンコン井戸」があって、昔日のレンコン栽培をしのばせる。中城村の慰霊塔も近くに建立されている。

中城城跡近くにあるシーシガンワーの山に集落跡の遺跡があり、土器、青磁などが発見されている。海岸低地帯は土地が肥え、サトウキビの栽培が盛ん。

13 津　覇 【つは】

村の東南部に位置し、東は中城湾に面する。地形は斜面部と平坦部からなるが、集落は国道の東側の平坦部に密集している。平坦部の耕作地は肥沃でサトウキビなどの生産性が高く、最近では花卉園芸作物も栽培されている。戦前から民俗芸能の盛んな所で、特に獅子舞は有名。国道の西側にそびえる上津覇の山には「上津覇遺跡」があり、炭化米、土器片などが発見されている。

14 当　間 【とうま】

村の政治・行政・教育・文化の中心であり、国道に沿って村役場、中城郵便局、中城中学校、JAなどがあり、海岸近くには村地区公園運動場、吉の浦会館などの施設があり、ホーメルの食品缶詰工場も建設されている。代表的な伝統行事に綱引がある。特に7年に一度行われる大綱引は注目される。

15 泊 【とまり】

大正期までは海岸には泊港があって、船舶が止まっていた。西方には中城城跡があるほか、中城阿司の末裔と伝えられる根所の泊大屋もあって、各地から参拝者が訪れる。伝統芸能の稲刈節は有名。

16 登　又 【のぼりまた】

明治の初期、首里・北谷などから移住した人たちがスデバナ（袖花）、ヤラグワー（屋良小）という屋取を構成し、添石・屋宜・伊舎堂・久場に所属していたが、昭和6年に行政区として分離独立。昭和29年、北中城村大城との境界に中城ダムが建設されて一部水田も開かれていたが、現在はサトウキビ中心の農業が営まれている。

17 浜 【はま】

村の東部、奥間の東約500メートルに位置し、東は中城湾に面する。地形は南浜・北浜と共に海岸低地地域だけで形成され、集落は密集している。もと、奥間に所属していたが、沖縄戦直後の昭和21年に分離独立して一自治会を新設した。本村唯一の漁港、中城浜漁港があり、字民の多くが漁業に従事している。サトウキビの生産も活発。

18 南上原 【みなみうえばる】

イージャーガーを源流とする普天間川が北流している。東側のがけに沿って北は北上原、新垣を経て中城城跡、西は西原、首里方面へ通じるハンタミチがあった。糸蒲は沖縄における田芋の発祥地といわれている。地内に琉球大学が移転したことにより1980年ころから住宅やアパートが増加し、人口も激増して、現在中城の中で最も人口が多い地域になつている。

19 南　浜 【みなみはま】

廃藩置県後にできた屋取集落で、やがて和宇慶に所属し、昭和12年に分離独立して字南浜となった。戦前からダイコンの名産地として知られる。昭和58年、土地改良事業が完成してからは、ビニールハウスが普及し、野菜栽培が増加して、村農協の野菜出荷場も設置された。、旧正月と旧暦9月9日には創始者の家にあるアサトガーを拝む伝統が守られている。

20 屋　宜 【やぎ】

屋宜海岸を屋宜の浦といい、古くは吉の浦と称した。地形は斜面部と平坦部からなり、村落は国道の西側にも分布するが、主として平坦部に立地し、海岸近くまで及んでいる。なお近世につくられたと伝えられるスガチミチ（潮垣道）より東側は、それまで海だったといわれている。集落発祥の地とされる玉城之殿は国道西側にあり、住民信仰の対象となり、ヤージヌンドゥルチも文化のかおりが高い。

21 和宇慶 【わうけ】

村の南部に位置し、伊集に隣接しているため、昔からンジュ・ヲーキと併称されてきた。和宇慶はもともと民俗芸能の盛んなところで、特に「稲しり節」は有名でししまい巻棒にも誇るべきものがある。昭和58年、亀甲墓に壁画が発見されたことは、沖縄の古い文化を解明する上から注目すべきものとして話題を呼んだ。

中城村の歩み

NAKAGUSUKU HISTORY

過去から現代そして未来へと続く「とよむ中城」のこころ

●先史時代から中世 ―― 中城の誕生

中城村で最も古い遺跡は登又遺跡で、2千数百年前のものとされ、当時の村民の暮らしは採取生活であったとみられています。その後、海岸の低地（伊集から久場まで）に人が住むようになります。

そこから社会生活が発達して5～6世紀から12世紀のグスク時代になると、中城にも台グスク、新垣グスクなどがあらわれます。これらの場所には、それぞれアジ（按司）がいて、互いに闘争していたと思われます。諸地方にいたアジが、やがて南山、北山、中山の三つにまとめられたあと、1429年に尚巴志がひとつにまとめたのです。

中城が歴史に大きく登場するのはそれから30年後の1458年に起きた「護佐丸・阿麻和利の変」。両雄が滅んでしまった真相はいまだ謎ですが、中山の第二尚氏（尚円）王統の全島制覇のひとつの過程であったともいわれています。

●琉球王朝時代 ―― 中城の基礎づくり

第二尚氏王統にとって中城は大切な地域で、王子の直轄領にしました。その理由のひとつは、肥沃なジャーガル土壌で生産力が高かったからです。薩摩支配（1609年）直後の間切別石高で、中城間切は全島の3000石を超える9つの間切に入っています。

中城間切はもとは27箇ムラから成っていましたが、分離統合を得て23箇ムラになり、あらためて屋宜原、登又、北上原、南上原の屋取集落（士族の開墾地）が加わったのです。

●近現代 ―― 新たな中城へ

中城間切のムラは、1879（明治12）年の廃藩置県で沖縄県の所管となり、明治29年中頭郡に所属、そして明治41年の島しょ町村制で中城間切の12箇ムラと現北中城村域の11箇ムラ、計23箇ムラで中城村が成立しました。

明治・大正の頃の中城村は、中頭郡のなかでも砂糖の生産高が高い純農村でした。昭和の初め頃の中城村は「移民村」として知られ、県全体の移民の10％近く、村内人口の20％以上の移民を海外に出していました。これは生産性の高さと相反する貧しさのあらわれともいわれています。

昭和20年の沖縄戦後、村は米軍施設によって南北に分断されたため、昭和21年5月に北部を北中城村として分村しました。

復帰後、軍用地のない本村は産業の振興に力を注ぎ、農業はサトウキビ中心から花卉、野菜、果樹など都市近郊型農業へと移行しています。産業では海岸沿いにはアルミ、製紙、製材などの工場が稼動し、沖縄電力の吉の浦火力発電所も建設されています。

文化面では、村の観光資源の核となる中城城跡の公園整備計画が着々と進み、南上原土地区画整理事業で学園都市としてのイメージが高まり、さらに住環境と文化交流の拠点づくりを進めています。

とよむ中城　吉の浦のお月　みかげ照りわたて　さびやねさみ

（名高い中城、吉の浦の月が照り輝いて、曇りひとつないように平和である）

この歌の”こころ“が、過去から現代、そして未来へと受け継がれていきます。

中城城一の郭にあった中城村役場（昭和8年3月31日撮影　資料提供：野々村孝男）
1908年（明治41年）には島嶼町村制が実施され中城間切は中城村に、間切番所は役場へと改称された。

県道開削記念碑（新垣）　<村指定史跡>
昭和9年10月、県道普天間与那原線（現在の県道35号線）の開通を記念して建立された碑です。当時、新垣集落は交通が不便で、道路の開通は長年の悲願でした。新垣出身の伊佐善俊などの努力が実を結び、昭和7年9月に起工、翌年4月に竣工しました。碑文は開通にいたる経緯を記すとともに、伊佐善則・善俊父子の功績を称える内容になっています。

琉球風景絵図　©沖縄県立博物館所蔵

中城の意外な話

中城豆知識

「中」の字を地名、名字に使うことを法律で禁止

1666年に出された琉球王府の布令に「中城と申す名字は衆中（士族）百姓しもじもまでも、御法度（禁止）であるので、別の名前にかえる様に通告しておく」とあります。中城王子だけが「中」の字を使えるようにするためで、この布令以後、中の字を地名と人名に使用することが避けられ、すべて「仲」という字に変えたといいます。いまでも仲村（仲村渠）、仲本、仲嶺などの姓はその名ごりです。

むかし中城城跡は子どものアミューズメントパークだった

1950年～70年代中城城跡は、地元はもちろん中部・南部・那覇市の子どもたちにとって、沖縄でただひとつの、夢のようなアミューズメントパークでした。

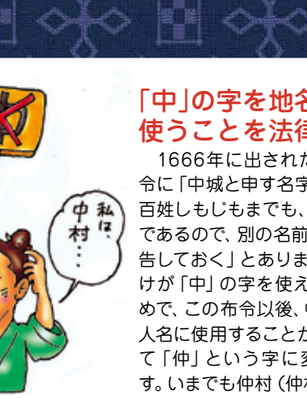
動物園にはキリン、クマ、ラクダなどがいて、遊園地にはヒコーキ、ボート、キシャなどいろんなアトラクションがあって、いつも子どもたちの歓声が聞こえていました。そんな中城公園のことを知っている世代も次第に少なくなっていきます。

中城城跡に遊園地があった頃、昭和30年代。この郭北東城壁上から馬場及び台城あたりを望む（沖縄県教育委員会提供）

鉄砲伝来は種子島より中城が200年も前

中城城跡南の郭南側と西の郭、北の郭さらに正門側の城壁に四角い穴が計5ヵ所開いています。これは火器を撃つための穴で、14世紀頃琉球にもたらされた三眼銃（ヒヤァーという）で使用したと考えられ、銃弾が城の内外から多数発見されています。

この付近の築城年代が14世紀中頃と考えられていますので、種子島に火縄銃が伝来した1543年より150～200年も前に、すでに中城城に火器がもたらされていたことになります。


【三眼銃】
（© 沖縄県立博物館所蔵）

中城で一番多い姓は新垣、以下比嘉、安里……

中城村内で一番多い姓は新垣、以下比嘉、安里、呉屋、仲松、伊佐、島袋と上位7姓が続きます。これは1880（明治13）年に戸籍編成で姓が固定化された時代からの傾向と考えられています。

集落別では、新垣は伊集・和宇慶・津覇・久場に、比嘉は奥間・当間・添石・伊舎堂・泊に、呉屋は津覇に、伊佐は新垣に、仲松は北浜・当間に、島袋は泊に多いようです。

屋宜には港があって日本から武器を輸入

12～17世紀にかけて編さんされた沖縄最古の歌謡集『おもろさうし』によると、その頃屋宜には港があって、日本から武器、甲冑のたぐいが入ってきたとあります。

その武器を護佐丸が利用し、勢力を伸ばしたことは十分考えられます。そのことは勝連における港とグスクの関係も同じで、後の「護佐丸と阿麻和利の変」の原因になったとする説もあります。

「伊集の打花鼓（ターファークー）」と「トゥランドット」の意外な共通点

トリノオリンピックのフィギアスケートで金に輝いた荒川静香で一躍有名になったプッチーニのオペラ曲「トゥーランドット」。

その旋律の一部に中国の「茉莉花（まりか）」（ジャスミンのこと）という曲が使われています。実はこの曲が「伊集の打花鼓」でも使われています。（伊集の打花鼓はかなり変化した曲になっています）

中城村の昔話
伊舎堂の三本ガジュマル

三本ガジュマルは、私らも話を聞いたが実に珍しい物ってよ。
首里の侍が所帯を持っている伊舎堂のチュラカーギーの女に一目惚れして、
「夫婦になろう。」と言っているわけさあ。
だけどそのチュラカーギーをどんなに望んでも、その女には夫がいるから落とせないわけさあ。
そしたらね、その侍の相棒が、
「お前は頭を回しなさいよ、自分の望んでいる女も落とせないってあるか。」と言うから、
首里侍が、「夫が居るからどんなしても落とせないさあ。どうしたらよいかなぁ。」って言ったって。
「用事と名付けて男を呼び出してからにな、これ殺したら、お前のものになるさ。」と
相棒が教えたわけさ。首里の侍は、「そうだな。」と言って、
用事があると夫を門に呼び出してさ。それで、その侍が殺したら、
その妻は、「ちょっと用事だ。出てみようね。」って行ったら、男は殺されているさあね。
もう愛しあっている夫婦であるから、
「ああアフィグワーもう死んでいるのに、私もここで死んだほうがいいさ。」と言ってよ、
その女も身投げしたんでしょう。
この侍もね、それを見て、「私も生きている必要も無い。」と言って、そこで身投げしたからよ、
この二人の男も女も同じ所に一緒に埋められているさあ。
女は侍に思いはかけないが、その首里侍は、その女に未練かけて、
「どうしても妻にする。」ともうこれだけ思いをかけているさあ。
それから、三本ガジュマルが、そこに植えられてあるって。

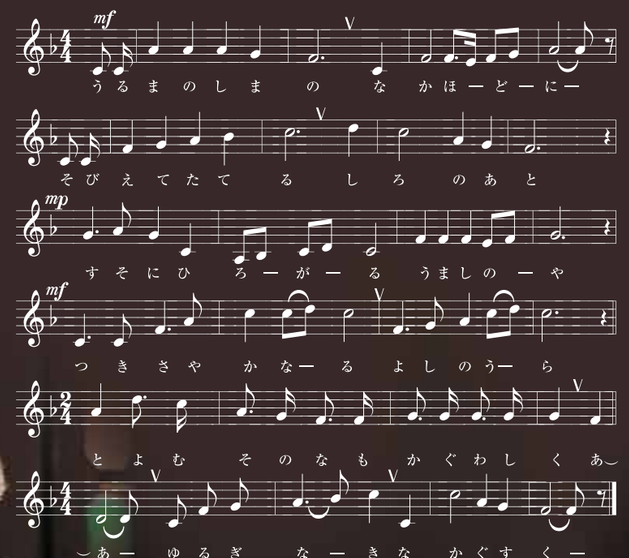
中城村民の歌

作詞　新垣秀雄
作曲　田場盛徳

一、
うるまの島の　中ほどに
聳えて立てる城の跡
裾にひろがる　うまし野や
月さやかなる　吉の浦
とよむその名も　かぐわしく
ああ　揺るぎなき　中　城

二、
教えの道も　一筋に
照らすかがり火　受けつぎて
歴史の重なみ　かみしめて
のぞみゆたかに　なごやかに
あゆむ足どり　かろやかに
ああ　豊かなる　中　城

三、
嵐もなにか　輪になれば
老いも若きも　はつらつと
あすへののぞみ　いや高く
今日のつとめ　目ざめつつ
とよむその名を　呼びかわし
ああ　栄えゆく　中　城



中城ジュニアオーケストラ

中城村民憲章

（昭和五四年三月十日　告示第十三号）

わたしたちの中城村は、誇りある歴史と豊かな美しい自然に恵まれ、産業・教育・文化の村として発展してきました。

わたしたち村民は、郷土を愛し村民としての誇りと責任を持ち、みんなの協力によってより明るく住みよい豊かな郷土を築きあげることを念願し、ここに村民として実践していくべき日常生活の信条としての憲章を定めます。

一、緑を育て清潔な住みよい環境の村をつくりましょう。

一、時間ときまりを守り明るい村をつくりましょう。

一、健康で生産に励み豊かな村をつくりましょう。

一、親切で助け合いなごやかな村をつくりましょう。

一、文化を守り育て教養を高め心豊かな村をつくりましょう。

一、青少年をすこやかに育てしあわせな村をつくりましょう。

一、海外雄飛の伝統を守り伸びゆく村をつくりましょう。

Nakagusuku Village Charter

With pride in our history and beautiful natural surroundings, we have developed Nakagusuku-son as a village of industry, education, and culture.

We love our home province and feel a responsibility and pride as people of this village. We have therefore created a charter to formalize the tenets we need to follow in daily life as we work together to make the village a more pleasant, abundant and better place to live.

Let us build:

A village that provides a clean living environment with cultivated greenery.

A happy village wherein people keep to schedules and follow rules.

A healthy, abundant village that encourages production.

A friendly village where people are kind and help one another.

A spiritually rich village that protects, promotes, and refines its culture.

A happy village that raises healthy youth.

A growing village that preserves its traditions in which the people are actively engaged in various activities abroad.

Nakagusuku Village

中城村村勢要覧

発　行：平成22年３月
編　集：中城村役場企画課

〒901-2493　沖縄県中城村字当間176番地
TEL 098-895-2131
FAX 098-895-3048
http://www.vill.nakagusuku.okinawa.jp/

制作・印刷／(有)サン印刷
http://www.sun-insatu.co.jp/